



①山車を支える楯方(橋詰町) ②紅塵車(西六軒町) ③静御前の舞(問屋町) ④頼光車(杵西町)  
 ⑤鉄道(名古屋鉄道)を山車が横断(橋詰町) ⑥紅塵車の見送り ⑦橋詰神社にて木遣りの奉納(問屋町) ⑧泰亨車(東六軒町)

# 尾張西枇杷島まつり

200年以上の歴史を誇る「尾張西枇杷島まつり」が6月4日(土)・5日(日)に開催されました。尾張西枇杷島まつりでは、山車を所有する橋詰町、問屋町、東六軒町、西六軒町、杵西町の5つの町内会が、2日にわたり、山車を運行します。

新型コロナウイルス感染症の影響で3年ぶりの開催となった今年の尾張西枇杷島まつりは、時間の短縮、打ち上げ花火の中止、露店出店中止など、今までにない形での開催となりました。

今月号は尾張西枇杷島まつり特集として、3年ぶりに開催されたまつりに対する思いや今後のまつりに対する思いを、長年まつりに携わってこられた各町内会の方に取材させていただきました。



橋詰町  
木全勝治さん

今年のまつりは、いろいろな制約がありました。皆がまつりを存続させたいという思いのもと頑張ってくれました。3年ぶりの開催は、満を持しての思いが強かったです。

山車は、囃子方・人形方・楯方など、それぞれの専門家が力を合わせ、総勢100名ほどの人数で動かしています。橋詰町の住人は、東海豪雨後、立ち退きなどで減少しているため、世帯によっては一家総出で参加してもらったり、前に住んでいた方や町内の知人の方に参加してもらうなど多くの方に支えられています。

まつりは、私にとって一年一年の総決算。一般の方は、正月が節目だと思いますが、私にとってはまつりが一年のスタートでありゴールです。若い世代の方には、今後も200年

※楯方とは、山車の運行を担い、山車の向きを変えたり進行方向を修正したりする役目のこと  
 ※曲場とは、楯方衆が4トンを超える山車を持ち上げて前輪を浮かせ、少しずつ回転させて山車の向きを変えること

以上の伝統を継承していつて欲しい  
と思っています。

## 問屋町

林哲夫さん



今年のまつりは、花火や露店、提灯  
がなかったのが寂しさもありました  
が、久しぶりに動く山車を見て感激  
しました。山車が好きな方にとって  
は、じっくり見物できる良いまつり  
になったのではないだろうか。

まつりは、僕にとって「人生」です。  
その一言につきまます。伝統を絶やさ  
ず、引き継ぐことは、山車のある町内  
に住む者としての使命だと思ってい  
ます。

まつりを有名にしたいとか、変え  
たいとは思っていません。子どもた  
ちが育って、一度この地やまつりを  
離れても、また戻ってきてくれる。そ  
うして、次の世代に伝えられ、まつり  
がずっと続いていくことを望んでい  
ます。

## 東六軒町

前田昌宏さん



コロナの影響での中止は、仕方の  
ないことと受け入れていました。3  
年ぶりの開催で、さまざまな制約も  
あり、どのように盛り上げたいの  
か迷う中、山車を運行する榎方衆  
も、最初は緊張していたようですが、  
衣装を着ると気持ち切り替わった  
ようで、いい曲場ができたと思いま  
す。お囃子も、中止となった2年間は  
練習できませんでしたが、長年演奏  
しているおかげで短い時間で合わせ  
ることができました。

200年続いたまつりの伝統を、  
若い世代へ伝えていくという責任感  
を持ってやっています。

まつりは、かけがえのないもので  
す。行政などの力も借りながら、これ  
からもずっと続いていつて欲しいと  
思います。

## 西六軒町

太田光則さん



まつりの開催を待ちに待っていま  
した。まつりを開催すると、僕もです  
が、町内の人々が元気になるんです。  
皆さん、山車が動くのを見て感激し  
ていました。2年間、開催できなかつ  
たことで、今まで僕がまつりのため  
に生きてきたこと、まつりの必要性  
を強く感じました。

まつりは、今まで引き継いできた  
ことを、次の世代に引き継いでいく  
バトンリレーです。このままずっと  
続いて欲しいと思っています。まつ  
りは、人とのつながりを作ってくれ  
ます。コロナの影響で中止となった  
ことで、当たり前山車を動かせる  
という幸せを身にしみて感しまし  
た。

## 杵西町

水谷雄造さん



まつりの開催が決まった時、お客  
さんが来てくれるのか、山車を動か  
す榎方たちは集まってくれるのか不  
安でしたが、実際は、皆さん集まって  
くれたので本当に嬉しかったです。

僕は、子どもたちが初めて山車に  
乗り、動いた時の笑顔が忘れられま  
せん。子どもにふるさとをつくりた  
いと思っずとやってきました。  
遠くで生活していても、まつりの日  
には地元に戻ってくる。ふるさとイ  
コールまつりになってくれているの  
ではないでしょうか。

まつりは、いくつになってもワクワク  
します。僕にとって「青春」です  
ね。

### 【編集後記】

今年は、規模縮小での開催となりましたが、3年ぶりに山車運行に携わる、囃子方・人形方・榎方の皆さんの姿は、今まで以上に優雅に、また勇ましく見えま  
した。広報担当として、2日間、このまつりに参加できたことを嬉しく思います。

末尾になりますが、今回、取材にご協力くださいました、各町内会の皆さまには心より感謝申し上げます。